

信州がんセンター

神田 慎太郎

2024年11月1日に信州大学医学部附属病院信州がんセンター長・教授を拝命いたしました，神田慎太郎と申します。どうぞよろしくお願いたします。信州がんセンターは，2013年4月に，県内のがん診療連携拠点病院の連携強化と長野県全体のがん医療の向上を目的として，信州大学医学部附属病院内に設立されました。がん薬物療法や緩和ケアの専門医だけでなく，通院治療室の看護師や薬剤師，医療ソーシャルワーカー，がんゲノムコーディネーターなど様々な職種が協働する組織です。がんは未だ難治性の疾患ですが，その治療は日を追う毎に進歩し個別化・多様化しており，患者のケアも全人的かつ高解像度とそのニーズをとらえ多職種で取り組んでいくことが求められるようになってきています。当院をはじめ長野県内には臓器別診療科にそれぞれの臓器の専門家がいますが，我々信州がんセンターはそれら院内外の各分野の専門家と連携しながら，患者とその治療，背景を様々な角度から俯瞰・仰視し，「Right patient, Right treatment, Right timing」が実践できるように一丸となって取り組んでいきます。

信州がんセンターのミッション - がんの不安を希望に変える。

信州がんセンターのビジョン

- ・長野県のがん診療の専門家（がん薬物療法や緩和ケアの専門医，専門看護師・薬剤師・医療ソーシャルワーカーなど）を育成する。
- ・包括的がんゲノムプロファイリング検査や治療開発のための臨床試験・治験を活発に行い，長野県のがん患者の治療選択肢を増やし，予後・QoL・治療満足度を向上させる。
- ・全てのがん患者に全人的かつ解像度の高い支援を行う。個別性の高いAYA世代や遺伝性腫瘍，希少がんへの支援体制の構築を通じて，あらゆる患者に対応できるようにする。

2025年，信州がんセンターの組織は，がん診療の個別化・多様化のニーズに応え上記のビジョンを達成するために，第4期がん対策推進基本計画や院内ワーキンググループの意見を参考に以下のように改変いたしました。

- ・がん薬物療法部門 - がん薬物療法専門医と通院治療室
- ・緩和医療部門 - 緩和ケアチームと緩和ケア外来
- ・がん医療支援部門 - がん相談
- ・がん情報部門 - がん登録室（院内がん登録，全国がん登録）とがん情報発信室
- ・がんゲノム医療部門 - がんゲノムエキスパートパネルとがんゲノム外来

・特定がん支援部門 - AYA サポートチームや遺伝性腫瘍チーム

がんゲノム医療部門は、2019年の包括的がんゲノムプロファイリング検査の実装化以降、長野県内のがんゲノム医療のナビゲーターの役割を担ってきました。当院は、長野県内唯一・全国32箇所のみのがんゲノム医療拠点病院に指定され、長野県内のがんゲノム連携病院から出検されるがんゲノムプロファイリング検査の結果に生物学的意味付・推奨治療の決定を行う専門家会議（エキスパートパネル）の機能を有しています。県内がんゲノム連携病院のご協力もあり、2020年には年間108件であったエキスパートパネルでの検討件数を2024年には484件まで増やすことができました。長野県内にはがんゲノム医療が普及してきたと言えますが、今後はさらに長野県内の適応患者に漏れなく包括的がんゲノムプロファイリング検査を届け、その結果を治療に繋げていきます。

また、2025年からは信州がんセンターに特定がん支援部門、AYA（adolescent & young adult）世代や遺伝性腫瘍の患者への支援するチームを新設しました。AYA 世代や遺伝性腫瘍、希少がんの患者は、情動的・社会的に孤立しやすく、治療や支援において個別性の高いアプローチが求められます。これらのチームでは関係診療科・部門の実務者にご参画いただき、患者ひとりひとりのライフステージや環境に適合したきめ細やかな治療・支援を目指しています。信州がんセンターは、これら個別性の高い特定の患者への支援を重点的に考えていくことで、あらゆるがん患者に対応できる幅の広い支援体制を構築していきます。

信州大学医学部附属病院のがん情報部門には、院内がん登録・全国がん登録の専門家が在籍し、がん登録の情報を整理・分析しています。院内がん登録は、各医療機関で診断・治療された全てのがん患者さんの情報を収集し、病院全体のがん診療の実態を把握する仕組みです。全国がん登録は、都道府県単位でがんの罹患率や生存率を把握するための制度であり、長野県では当院が県からの委託を受けて、県内の医療機関から提供されたがん患者さんの情報を登録し、地域におけるがんの罹患率と生存期間を把握しています。整理・分析されたがん登録のデータは、長野県のがん対策や啓蒙活動、研究に役立てていきます。

私は Incognito というイギリスのアシッドジャズのバンドのファンで、毎年必ずそのライブに足を運びます。彼らの魅力は何と言ってもライブでの高い歌唱力・演奏力で、個々のプロフェッショナルがチームで成すギグは、私の想像を超え、感動を与え、気持ちを鼓舞してくれます。こうしたプロフェッショナルが成す想像を超えたパフォーマンスは、がんの診療・支援の場にも存在すると信じています。がん（特に進行がん）の診療や支援には、前時代には「誰が携わっても予後不良であり結果は変わらない・誰でもできる」という観念がありました。現在では日々進歩する知識や手法を知っている専門家だからこそ辿り着ける領域が在ります。信州がんセンターは、がん診療・支援のプロフェッショナルを育成し、我々にしかできない質の高い診療と支援を実践していきます。

（信州大学医学部附属病院信州がんセンター教授）